

高岡市吉久における住民協働型サイン計画 その1
—地域の魅力と既存サインに関する事前調査—

準会員	○梶田 美結*
正会員	北島 陽貴**
正会員	重山 隼人**
正会員	藪谷 祐介***
会員外	田邊 元***

重伝建	まちづくり	サインデザイン
住民参加	地域愛着	エピソード

1. 研究の背景と目的

富山県高岡市吉久（以下、吉久）は、2020年12月に重要伝統的建造物群保存地区（以下、重伝建）に選定され、それにより吉久への来訪者の往来が増加した。しかし、来訪者が主に利用する公共交通機関である万葉線の新吉久駅（以下、電停）や吉久に設置されている既存のサインは、吉久が重伝建に選定される以前に設置されたものであり、情報が不足していた。そのため、地域住民間で電停の既存サインを見直す機運が高まり、高岡市日本遺産推進協議会から委託を受けた富山大学藪谷・田邊研究室（以下、富山大学）が主導して吉久サイン計画に取り組むこととなった。

吉久では、吉久まちづくり推進協議会^{注1}やNPO法人吉久みらいプロジェクト^{注2}が主体となり、町並み保全を始めとするまちづくり活動が行われているが、担い手の不足や高齢化、構成年代の偏りが生じているため、それらの改善のために新たな担い手の発掘が必要である。加えて、本計画は富山大学が主導しているが、計画を進める上で地域住民の知識や視点による吉久の魅力や歴史に関する情報が必要であると考えた。これらのことから、地域住民を対象とした吉久の魅力に関するアンケート調査の実施や、有志の地域住民と協働で取り組んだ案内スポット^{注3}の選定とモデルルートの考案、それらに基づいたサイン配置・表記計画の検討（以下、チーム活動）、本計画を地域住民に報告と意見交換を行う報告会の開催といった、地域住民との様々な協働を通して本計画に取り組むこととした。本研究では、そのような専門家が主導しつつ地域住民との様々な協働を通して取り組むサイン計画を、住民協働型サイン計画と呼ぶ。

本研究では、住民協働型サイン計画の効果や課題について検討し、今後の住民協働型サイン計画における有用な知見を示すことを目的とする。なお、本研究は2編で構成され、本編では住民協働型サイン計画の方法論構築のための事前調査の成果と課題を検討し報告する。

2. 研究対象地の概要

吉久は、高岡市の中心市街地から北東へ約5km離れたところにあり、小矢部川と庄川に挟まれた河口に位置している。江戸期から加賀藩領であったため、藩主の収入となる御詰米を収める御蔵が設置されており、年貢米の集散地としての機能も有していたため、多くの人々が集まる在郷町として発展した。明治期は重工業の発展で成功を収め、米商の町から工業の町へと変化を遂げた¹⁾。

現在の吉久は、その中心部にかつての街道である旧放生津往来が通っており、江戸時代後期までに形成された地割がそのままの形で残されている。そのため、折れ曲がりのある特有の町並みを形成しており、在郷町の歴史的風致をよく伝えている。また、この町並みは重伝建に選定されており、重伝建が住民の生活の場となっていることも吉久の特徴の1つである。そのため、本計画で考案するサインは歴史的な町並み観光を目的とした来訪者だけでなく、地域住民の生活を豊かにするものであることが望ましいと考えられる。

3. 研究の方法

本計画の活動は、①地域住民を対象とした吉久の中で魅力を感じるスポットに関するアンケート調査、②吉久にある既存サイン調査、③富山大学と地域の有志メンバー、吉久まちづくり推進協議会のメンバーの一部（以下、協議会メンバー）で構成されるサインチームでの本計画内容の検討、④報告会と冊子の配布による地域住民への本計画の報告、という4つの手順で行った（表1）。

本計画は住民協働型であることに特徴を有している。具体的には、有志メンバーと協議会メンバーとで本計画の内容を検討するチーム活動を中心に、全住民からの意見を集めるアンケート調査や報告会を行うことで、様々な協働の機会を計画した。そのような協働を通して、地域住民からの意見を計画に反映させており、特にアンケート調査で集めた魅力的な地域資源に関するエピソードを紹介文に取り入れ、地域住民の思いの詰まったサイン

計画とした。

4. 吉久の魅力に関するアンケート調査

本計画の実施にあたり、吉久のどの位置に新しいサインを設置するのかを決定する必要があった。そこで、地域住民が吉久に感じる魅力を把握し、本計画の活動に活かすことができる情報を得ることを目的として、吉久の魅力に関するアンケート調査を実施した。アンケート調査の概要は表2に、結果は表3・図1に示す。

アンケート用紙は吉久の全住戸に配布した。吉久で気に入っている場所や思い出深いエピソードがある場所、その理由をアンケート用紙に記載されている地図上に書き込んでもらった。回収したアンケートを集計し、意見が出た場所を地図上に表記し整理した。また、アンケート用紙にてチーム活動に参加するメンバーを募集した。

アンケート調査で集まった吉久の魅力的な場所を、【自然スポット】【広場スポット】【歴史スポット】【お店・建物スポット】【道・線路スポット】の5つに分類した(表3・図1)。「自然スポット」では「さくら台」の桜並木に関するエピソードが最も多く集まり、春に咲く桜がきれいで毎年楽しみにしている住民が大勢いることが分かった。「広場スポット」では「三角広場」と「住民広場」に関するエピソードが多く寄せられた。子どもの頃によく遊んでいた思い出や、盆踊りをはじめとする夏祭りの思い出が住民にとって大切であることが分かった。「歴史スポット」では「吉久神明社」に関するエピソードが最も多く集まり、お祭りの時には屋台がいっぱい出て大勢の人で賑わうことが分かった。「お店・建物スポット」で

は吉久の飲食店である「さまのこ屋」に関するエピソードが多く集まり、地域住民がこのお店に親しみをもっていることが分かった。【道・線路スポット】では放生津往来に関するエピソードが最も多く集まった。放生津往来では「さまのこアート in よっさ」や「よっさ朝市」などのイベントが開催され、さまのこアートで風情ある町並みにアート作品が並ぶ風景や、色々な人に会うことができる朝市を楽しみにしていることが分かった。これらをはじめとするアンケート調査の結果から、地域住民が吉久の中で魅力的に感じる場所は重伝建付近だけでなく吉久全体に広がっていることが分かった。そのため、本計画では吉久全体を案内する必要があると考えた。

表2 アンケート調査の概要

実施期間	2022年7月10日～2022年7月31日
調査対象者	高校生以上の地域住民
サンプル数	配布数:1013 / 回収率:49.1% / 有効回答率:21.9%
調査項目	①吉久で気に入っているところや思い出深いエピソードがあるところとその理由(場所は地図上に記入) ②サインチーム活動への参加希望者の募集

表3 アンケート調査の結果

分類	場所名	集まった魅力エピソードの例	回答数
自然スポット (桜)	さくら台の桜並木	・桜がきれいで毎年楽しみ。 ・よく花見をしていた。	29
	TEKリサイクルセンターのしだれ桜	・桜がきれいで毎年楽しみ。 ・夜桜ライトアップがとてもきれい。	4
自然スポット (水辺)	牧野用水	以前はザリガニ釣りができた。	10
	庄川	魚釣りをしていたところ。	4
	小矢部川	夕景がきれい、ふつと冬景色も。	3
広場スポット	三角広場	・浴衣を着て盆踊りをした楽しい思い出。 ・子どものころによく遊んでいた。 ・我が子が孫を連れてよく遊びに行った。	31
	住民広場	・子どものころによく遊んでいた。 ・色々な行事が行われている。	13
歴史スポット	吉久神明社	・夏祭りの時にはたくさん屋台が出て賑わう。 ・厳かな雰囲気のお正月のお宮参り。	18
	あんころの宮	色々な子どもイベントが行われる場所。	9
	西照寺	・子どものころによく遊んでいた。 ・お寺のイベントが行われていた。	4
お店・建物スポット	伏木橋跡	渡し船で対岸の伏木と繋がっていた思い出。	3
	さまのこ屋	・食事がおおいしく、お客さんを連れて行くことができるお店があって嬉しい。 ・元気なオーナーがいるほっとできる居場所。	6
	公民館	子どものころによく遊んでいた。	5
道・線路スポット	吉久ひな祭り保育園	保育園に通っていた思い出。	3
	放生津往来・吉久の伝統的町並み	イベント時に風情のある町並みにアート作品が並ぶ風景や獅子舞の迫力のある風景が見られる。	17
	庄川の堤防	・よく散歩している。 ・立山から登る朝日がきれい。	6
	よっさの銀座	人通りがあって楽しい街だった思い出。	5
	万葉線通り	電車やたくさんさんの線路の風景がいい。	5

表4 既存サイン調査の概要

実施期間	2022年7月10日～2022年7月31日
調査対象者	高校生以上の地域住民
サンプル数	配布数:1013 / 回収率:49.1% / 有効回答率:21.9%
調査項目	①サインのタイプ / ②対象者 / ③GLからの高さ / ④言語 / ⑤表記(文字・色など)の分かりやすさ / ⑥町との調和性 / ⑦目的地までの距離の関係性
写真記録のルール	①対象に正対して撮影する ②対象を画角いっぱい撮影、周囲も含めて撮影の2パターン撮影 ③縦向きで撮影(周囲も含めて撮影する場合はGLが写るようにする)

表1 活動の流れと内容

時期	手順	活動	内容
2022年4-5月	活動準備	企画書	事例調査や既往研究を参考にして、本計画の目的の整理と方法の検討を行った。
2022年6-10月	事前調査	歴史調査	吉久伝統的建造物群保存対策調査報告書(再調査編)を参照し、歴史情報を整理した。
		アンケート調査	吉久の魅力に関する情報を集めるためのアンケート調査を行った。
		既存サイン調査	吉久を案内するサインの現状を整理するために、既存サインの観察・記録を行った。
2022年11月～2月上旬	チーム活動	説明会	本計画の概要や事前調査結果の共有とサインに関する簡単なレクチャーを行った。
		第1回	既存サイン調査結果をもとにサインに着目したまち歩きを行い、その後チームメンバーに本計画への思いと合わせて自己紹介をしてもらい、チーム活動の日程調整を行った。
		第2回	事前調査結果をもとに本計画の目的や追加する案内スポット候補について意見交換を行った。
		第3回	考えてきたモデルルートの意見交換を行った。
		第4回	案内スポットの選定、第3回の意見を統廃合したモデルルートの確認、サイン表記の構成要素の確認を行った。
		第5回	歴史調査とアンケート調査をもとにした案内スポットの説明内容(案)の確認を行った。
		第6回	第5回の意見をもとにした案内スポットの説明内容(案)と報告会の発表内容の確認を行った。
2022年2月中旬～3月	活動報告	活動	本計画の概要や活動内容とその結果を報告し、質疑応答やアンケート調査によって本計画への意見を集めた。
		活動	本計画の概要や活動内容とその結果を冊子にまとめ、吉久の全住戸に配布した。

5. 既存サイン調査

専門的な知識を必要とする既存サイン調査は富山大学が実施した。既存サイン調査では、吉久の既存サインを整理し、まち歩きのにやすさの現状を把握することで、本計画で取り組む課題点や計画するサインの位置づけを明確にすることを目的とした。観察調査の概要と調査項目は表4に、調査結果は図2に示す。本計画で活用した項目は主に表4の①⑦であり、その他の項目はサインデザインの際に活用する。調査結果から、吉久には多くの案内サイン^{注4}が設置されているが、設置主体が統一されていないためサイン同士の連携が取れていないことが課題点としてあげられる。また、吉久を案内するサインが少ないことも課題の1つである。これらのことから、電停に設置されているサインの見直しだけではなく、吉久全体のサインを連携させて計画する必要があると考えた。また、現在設置されているサインでは電停から重伝建までの道りが分かりにくく、誘導サイン^{注5}の見直しは必須である。また、吉久の観光資源を紹介する位置サイン

^{注6}も不足している。これらのことから、来訪者が利用する電停から重伝建までの道のりを示すサインと観光資源を紹介するサインを計画する必要があると考えた。

6. まとめ

本稿では、住民協働型サイン計画の方法論構築のための2つの事前調査の成果と課題を検討し報告した。

アンケート調査における成果は、既に知られている観光資源にとどまらない様々な魅力や魅力的な地域資源に関するエピソードなど、専門家だけでは得られない知見を得ることが出来たことである。その知見から、本計画では吉久全体に点在している魅力的な地域資源を案内する方針を立てることができた。アンケート調査における課題は、アンケートの回収率が低かったことである。サインという聞き馴染みのない用語から、地域住民が本計画の意義を理解し辛かったことが原因の1つだと考えられる。よって、調査の前に地域住民を対象とした説明会やサインに着目したまち歩きを実施するなどの工夫を行い、地域住民の本計画への興味関心を高めることで、こ

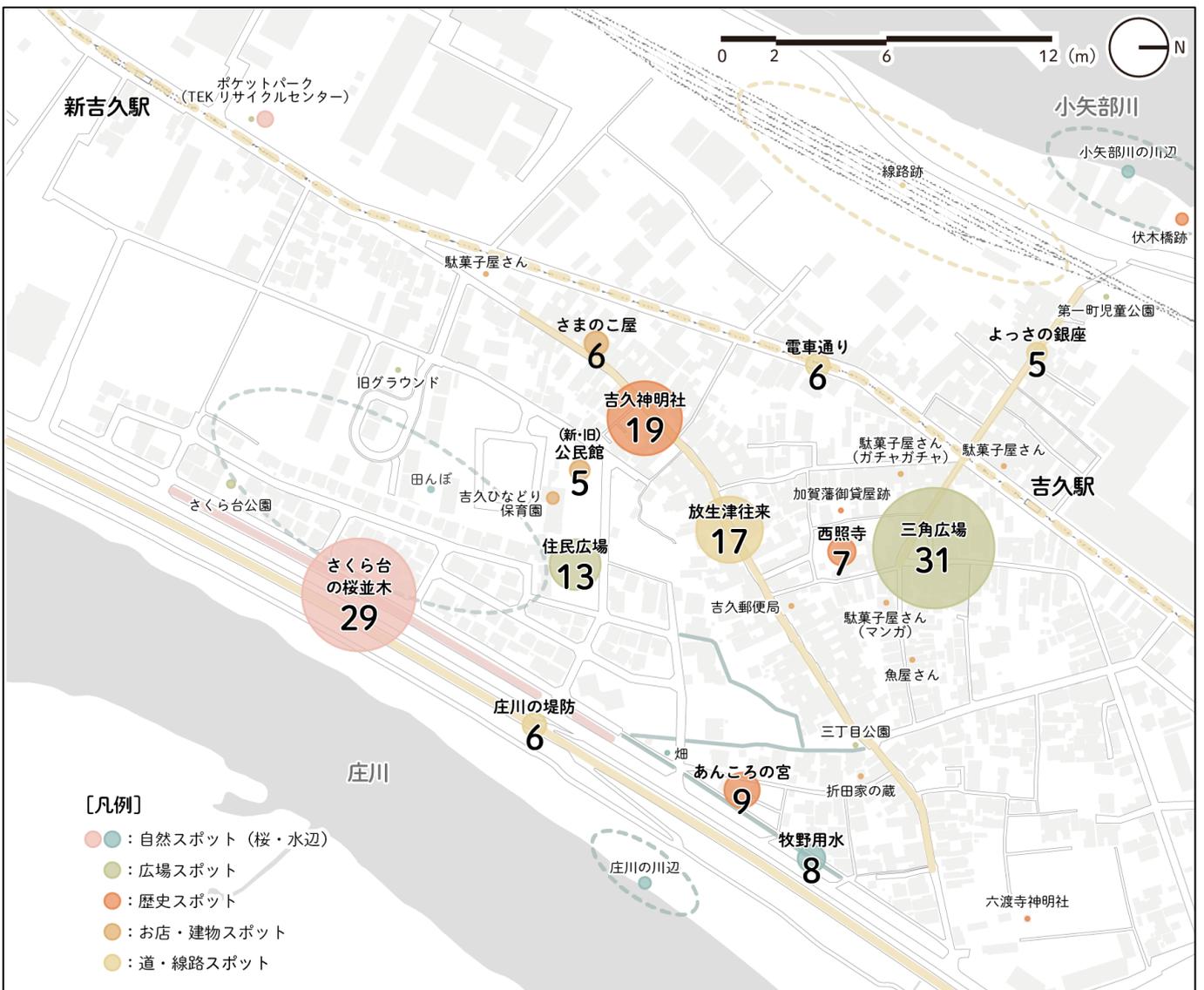


図1 アンケート調査結果

の課題を改善できると考えられる。

また、本計画は全ての活動を住民と協働で行うのではなく、専門的な知識を必要とする既存サイン調査は富山大学が実施した。特に大きな問題が生じなかったことが、限られた時間の中での円滑な活動実施における成果と言えるだろう。既存サイン調査で得られた知見から、本計画では吉久を案内するサインを増設し、それらサインの連携性を重視する方針を立てることができた。

参考文献

- 1) 高岡市教育委員会『高岡市吉久伝統的建造物群保存対策調査報告書（再調査編）』2020年

注

注1) 「吉久まちづくり推進協議会」は、2011年に「吉久

の伝統的町並みを考える会」と連合自治会が一体となって設立され、まちづくりワークショップの開催など住民主体のまちづくりに取り組んでいる。

- 注2) 「NP0 法人吉久みらいプロジェクト」は2014年に設立され、空き家の管理や活用に取り組んでいる。
- 注3) 「案内スポット」とは、計画するサインを用いて来訪者や地域住民を案内するスポットのこと。
- 注4) 「案内サイン」は、出発地に配置され、現在地と目的地の位置関係や様々な情報を示すサインである。
- 注5) 「誘導サイン」は、出発地と目的地の間に配置されるサインで、特に分岐地点に配置される。現在地から目的地までの距離や方向を示すサインである。
- 注6) 「位置サイン」は、目的地に配置され、目的地に関する情報を示すサインである。

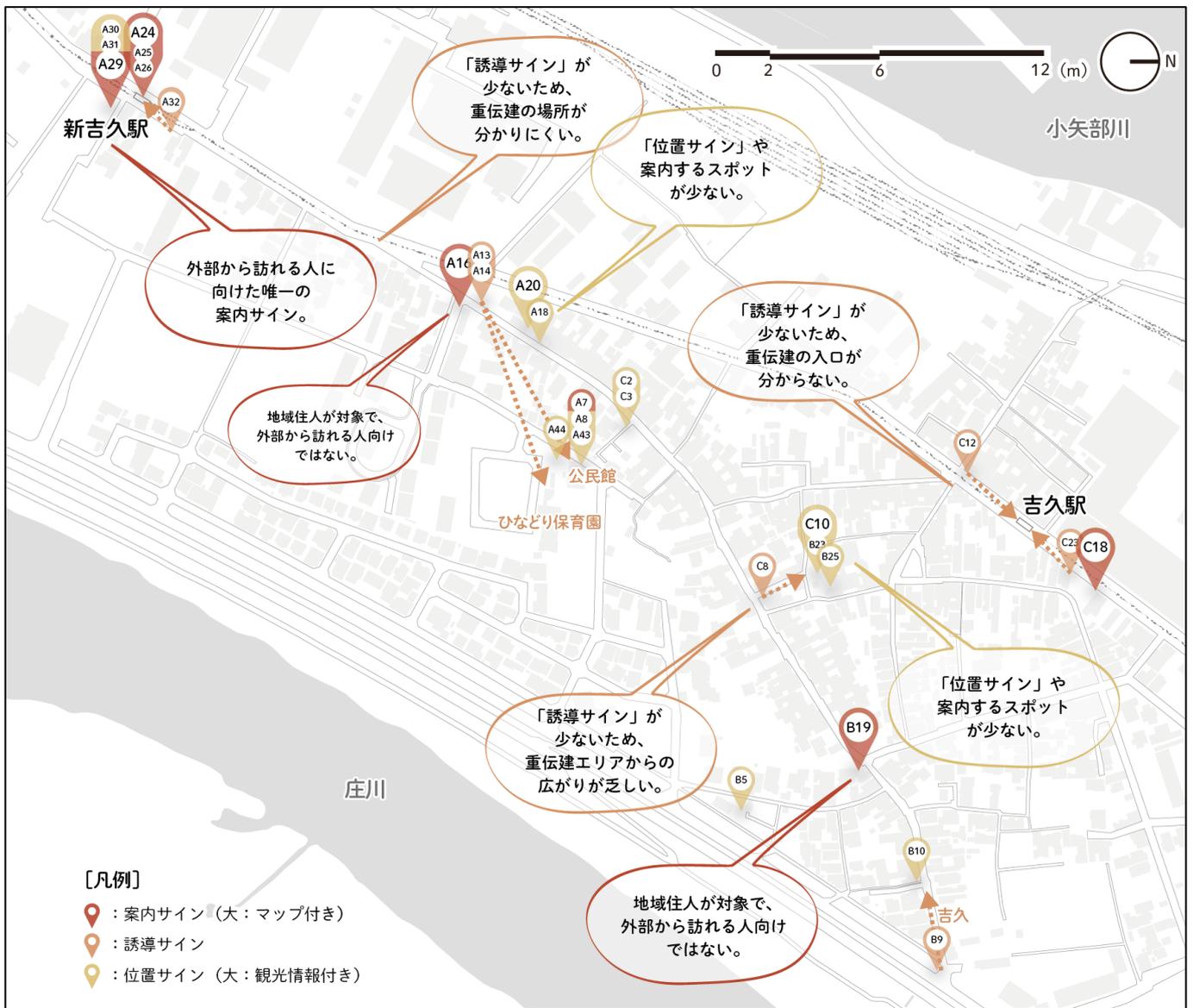


図2 既存サイン調査結果

*富山大学芸術文化学部 学部生

**富山大学人文社会芸術総合研究科 大学院生

***富山大学芸術研究部芸術文化学系 講師

* Student, Graduate School of Art and Design, University of Toyama

** Graduate School of Humanities and Social Sciences, University of Toyama

*** Lecturer, Faculty of Art and Design, University of Toyama